

ツマアカスズメバチ緊急防除の結果について

令和4年5月以降、福岡市等で特定外来生物（※）であるツマアカスズメバチが確認されてきたことを受け、環境省は市内等で生息状況等調査や巣の発見と駆除を目的とした巣の探索調査を実施しました。その結果、巣の発見はありませんでしたが、九州大学による調査において東区で発見された巣1個を10月7日に環境省が駆除しました。加えて、発見されていない巣も駆除することを目的として、巣の位置が不明であっても防除が可能な化学的防除が実施されました。化学的防除の効果は来春の調査により確認予定です。

巣の駆除以降、市内でのツマアカスズメバチの確認情報はありません。

※外来生物（海外起源）であって、生態系、人の生命・身体、農林水産業への被害を及ぼすもの、又は及ぼすおそれがあるものの中から、環境省が指定

1 経緯

- 5月9日 4月28日に東区で発見されたスズメバチが、専門家の同定によりツマアカスズメバチの女王バチであることを確認。
- 5～9月 環境省、九州大学の調査等において、東区、久山町及び篠栗町で散発的に確認。
- 9月10～25日 環境省の調査において、東区、久山町及び篠栗町で約30個体を確認。

2 今般行った調査及び防除の概要

環境省は9月26日～10月10日にかけて、これまでの確認情報等から巣が存在する可能性が高いと考えられる東区下原及び久山町山田・久原周辺にて、蜜によりツマアカスズメバチを誘引し、帰巣する方向を追跡することで巣を発見し駆除することを目指す巣の探索調査を実施しました。

また、九州大学の調査において東区で発見された巣1個を10月7日に環境省が駆除しました。駆除した巣からは死んだ女王バチが確認され、次世代の新女王バチ等の発生はまだありませんでした。また、調査の結果、他にツマアカスズメバチの巣は見つかりませんでした。

巣の探索調査と並行し、巣を発見できない場合でも防除を行える方法として、同じ範囲で市販のスズメバチ駆除用薬剤を用いた化学的防除も実施されました。

巣の駆除及び化学的防除を実施した約2週間後に、周辺にて目視及び蜜による誘引を行うツマアカスズメバチの確認調査が実施されましたが、発見されませんでした。

10月7日の巣の駆除以降、市内においてツマアカスズメバチの確認情報はありません。

3 今後の対応

環境省と連携して、引き続き侵入の監視等を行うとともに、来春以降に再度生息状況調査を行います。

4 発見した場合

ツマアカスズメバチの個体や巣を発見した場合は、近寄らず、刺激しないでください。

また、発見場所等の情報について、環境省九州地方環境事務所または福岡市環境局環境調整課までお知らせください。

環境省九州地方環境事務所野生生物課 電話(096)322-2413 FAX(096)322-2447
福岡市環境局環境調整課 電話(092)733-5389 FAX(092)733-5592



【問い合わせ先】

環境局環境調整課 後藤

TEL : (092) 733-5388 内線 2430

FAX : (092) 733-5592

<参考>

1 ツマアカスズメバチについて

- ・体は全体的に黒っぽく、腹部の先端がオレンジ色
(体長 女王バチ 30mm、オス 24mm、働きバチ 20mm 前後)



(写真提供：環境省)

- ・中国、台湾、東南アジア、南アジア原産
- ・在来のスズメバチよりも大きな巣をつくる。樹木の高い位置に巣をつくることが多い。
- ・おもに昆虫類（ミツバチを含む）を捕食する。
- ・在来スズメバチの減少や捕食される昆虫の減少による生態系のかく乱といった生態系への影響、飼育ミツバチへの攻撃、養蜂や受粉への被害といった農林業（養蜂）への影響が懸念される。
- ・人への影響としては、在来スズメバチと同様、人への刺傷被害があるが、特に攻撃性や毒性が強いということはない。

2 国内での確認状況について

- ・平成 24 年 10 月長崎県対馬市で国内初確認、その後定着。
- ・平成 27 年 9 月福岡県北九州市、平成 28 年 5 月宮崎県日南市、平成 29 年 9 月長崎県壱岐市、平成 30 年 10 月大分県大分市、令和元年 11 月山口県防府市で確認されたが、いずれも駆除され、現在まで確認されていない。

福岡県福岡市及び糟屋郡久山町における ツマアカスズメバチ緊急防除の結果について

令和4年11月15日（火）
環境省
九州地方環境事務所 野生生物課

課長：大澤 隆文
課長補佐：安藤 忍
TEL：096-322-2413

<福岡県、福岡市、久山町同時発表>

外来生物法に基づき特定外来生物に指定されているツマアカスズメバチが、令和4年5月以降、福岡県福岡市東区及び久山町等で確認されてきたことを受け、在来の生態系や養蜂業への影響を抑えるため、環境省九州地方環境事務所では生息状況等調査や、巣を発見し駆除することを目的に巣の探索調査を実施しました。その結果、巣の発見はありませんが、九州大学による調査で発見された巣について駆除を行いました。加えて、発見されていない巣も駆除することを目的として、巣の位置が不明であっても防除が可能な化学的防除を実施しました。防除の効果については来春の調査により確認予定です。

1. 福岡市及び久山町におけるツマアカスズメバチの初確認以降の経緯

令和4年4月28日に福岡市東区、5月6日に久山町において、私有地内でツマアカスズメバチの個体（それぞれ女王バチ1個体）が発見されました。それ以降5月から9月にかけて、九州大学の上野高敏准教授による調査等を含め、福岡市東区、久山町及び篠栗町においてツマアカスズメバチが散発的に確認されました。

その後、9月10日から25日にかけて、これまでツマアカスズメバチが確認された地点から3km圏内を中心に、九州地方環境事務所により約700個のトラップを設置し生息状況調査を実施したところ、福岡市東区、久山町及び篠栗町内でツマアカスズメバチ約30個体が発見されました。

※詳細については、報道発表資料を御参照ください。

令和4年5月9日（月）発表

「福岡県福岡市におけるツマアカスズメバチの確認について」

http://kyushu.env.go.jp/pre_2022/post_158.html

令和4年5月10日（火）発表

「福岡県糟屋郡久山町におけるツマアカスズメバチの確認について」

http://kyushu.env.go.jp/pre_2022/5.html

令和4年6月8日（水）発表

「福岡県福岡市及び糟屋郡久山町におけるツマアカスズメバチ生息状況等緊急調査の結果について」

https://kyushu.env.go.jp/pre_2022/68.html

令和4年7月20日(水) 発表

「福岡県糟屋郡久山町におけるツマアカスズメバチ生息状況等緊急調査の結果について」

https://kyushu.env.go.jp/press_00010.html

令和4年10月3日(月) 発表

「福岡県福岡市及び糟屋郡久山町におけるツマアカスズメバチ緊急防除の実施について」

https://kyushu.env.go.jp/press_00014.html

2. 今般行った調査及び防除の概要

これまでの確認情報等から、関係機関と連携し、ツマアカスズメバチの巣が存在する可能性が高いと考えられる久山町山田、久原及び福岡市東区下原周辺にて、9月26日から10月10日にかけて、蜜によりツマアカスズメバチを誘引し、帰巢する方向を追跡することで巣を発見し駆除することを目指す巣の探索調査を実施しました。また、その結果も踏まえつつ平行して行なわれた九州大学による調査では福岡市東区にて1個の巣が発見され、九州地方環境事務所により10月7日に駆除を実施しました。駆除された巣からは死亡した女王バチを確認し、次世代の新女王バチ等の発生はまだありませんでした。また、調査の結果、他にツマアカスズメバチの巣はみつかりませんでした。

巣の探索調査と並行し、巣を発見できない場合でもツマアカスズメバチの駆除を行える方法として、同じ範囲で化学的防除も約100個の市販のスズメバチ駆除用薬剤で実施しました。その後、11月8日～11日(巣の駆除及び化学的防除を実施した約2週間後)に、周辺にて目視及び蜜による誘引を行ってツマアカスズメバチの確認調査を実施したところ、ツマアカスズメバチは発見されませんでした。

また、10月7日の巣の駆除以降、福岡県内においてツマアカスズメバチの確認情報はありません。

※調査及び防除の詳細につきましては以下の報道発表資料をご参照下さい。

令和4年10月3日(月) 発表

「福岡県福岡市及び糟屋郡久山町におけるツマアカスズメバチ緊急防除の実施について」

https://kyushu.env.go.jp/press_00014.html

3. 今後の対応

秋には、ツマアカスズメバチ(働きバチ)の個体数がピークに達し、雄バチ、新女王バチが巣内で羽化し、やがて雄バチ、新女王バチは巣外へ出て交尾し、交尾後の雄バチは死亡し、新女王バチは越冬に入ります。そして、元の巣は冬に向

けて個体数が減少していき巣内の個体は死亡します。

このため、防除の効果については来春以降に再度、ツマアカスズメバチの生息状況調査を行うとともに、関係機関と協力し、引き続き侵入の監視等に努めます。

4. 住民の皆様へ（特に疑わしい個体を発見した場合の対応）

ツマアカスズメバチは生態系や養蜂業等に悪影響を及ぼすおそれがあり、警戒が必要です。また、他のスズメバチと同様に刺傷する可能性についても、注意が必要です。ただし、在来のおオスズメバチ等と比較して、特に人体に関わる被害が大きいことはありません。

他方、九州地方に限らず、ツマアカスズメバチの定着が確認されている地域（韓国・釜山港など）と往来のある港湾等においては、侵入のリスクがあります。また、ツマアカスズメバチは、高い繁殖力と分布拡大能力を有していることから、一旦定着してしまうと根絶が難しく、在来の生態系に対して被害を与えるほか、ミツバチを好んで捕食することから、養蜂業にも影響が出ると考えられ、早期発見、早期駆除により定着前に根絶を図ることが重要です。そのため、次世代の新女王バチ等が発生する前に今回の緊急的な巣の探索及び化学的防除を実施したものです。

福岡市及び久山町で初めてツマアカスズメバチが確認された今回の事例では、養蜂関係者からの迅速な通報により、早期に対策を実施することができました。

地方自治体や駆除業者、養蜂業者の方々につきましては、ツマアカスズメバチと思われる個体が発見された場合には、管轄区域の環境省地方環境事務所にご連絡ください。

連絡先 URL : <http://www.env.go.jp/region/index.html>

(参考)

ツマアカスズメバチについて

1. 生態について

- 原産地：中国、台湾、東南アジア、南アジア
- 日本での定着状況：長崎県対馬（平成 24 年 10 月に初確認。侵入経路は不明。）
- 樹木の高い位置に営巣することが多い。主にミツバチなどの昆虫類を捕食する。

2. 懸念される影響

- (1) 生態系に関わる影響：在来種との競合
- (2) 農林水産業に関わる影響：養蜂業への影響
- (3) 人体に関わる被害：刺傷被害

※海外では、韓国やヨーロッパ（フランス、スペイン）で定着が確認されており、飼育されているミツバチや、在来のスズメバチの減少が報告されている。

※在来のオオスズメバチ等と比較して、特に人体に関わる被害が大きいことはない。

